

キリスト教教理入門

1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪
7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

第十部 救済論

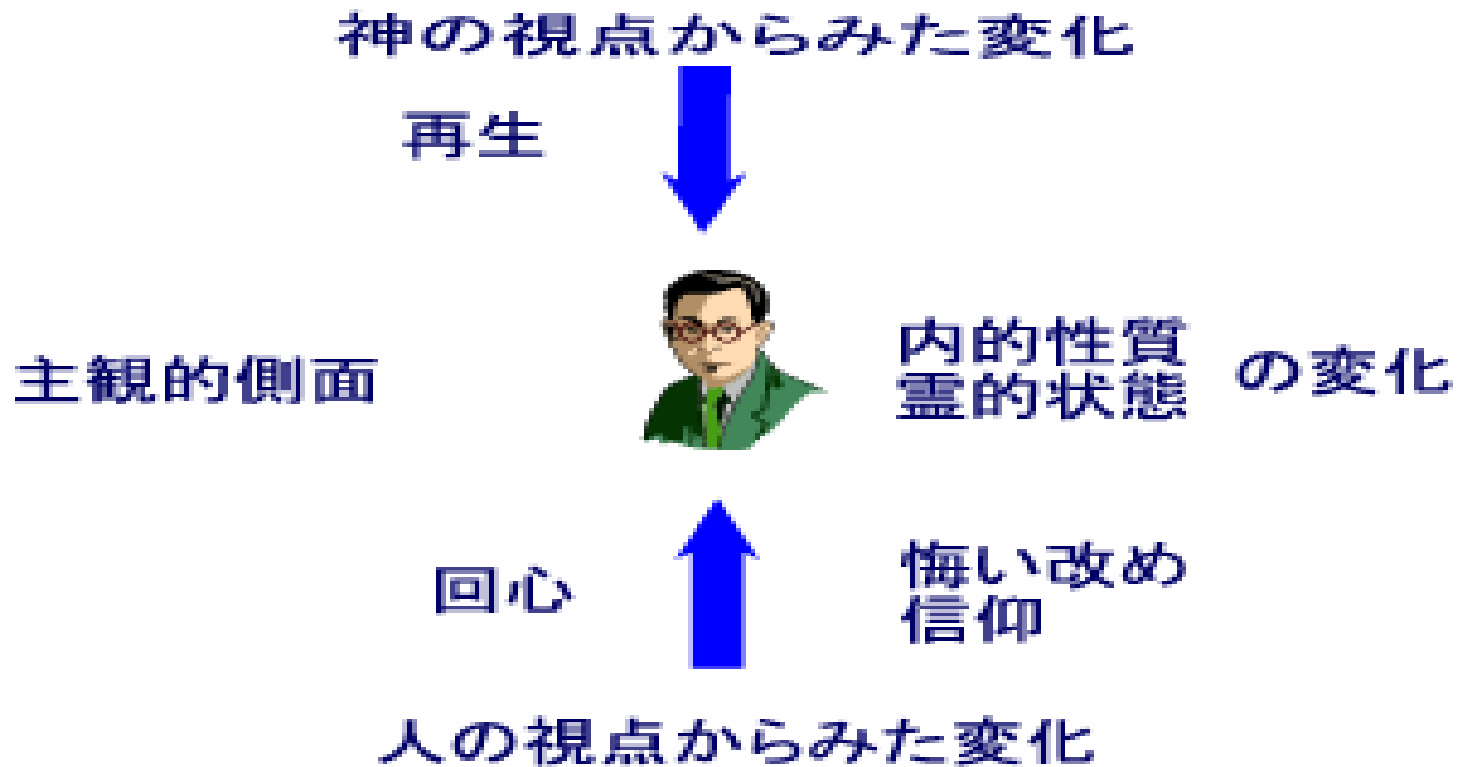
- 30章 救いの概念
 - 31章 救いの先行性: 予定
 - 32章 救いの始まり: 主観的視点
 - 33章 救いの始まり: 客観的視点
 - 34章 救いの経過と完成
-

第10部 救済論

第32章 救いの始まり:主観的視点

1. 有効召命
2. 回心
 1. 悔い改め
 2. 信仰
3. 再生
 1. 聖書的意味
 2. 再生の意味
4. 有効召命、回心、再生の意味合い

主観的側面

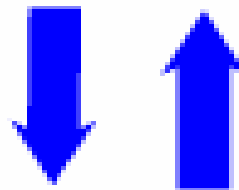


客観的側面

神と人との関係の変化

神

客観的側面



キリストとの結合
義認
子とされること



第32章

第1節 有効召命

1. 準備的事柄
 2. 一般召命
 3. 特別召命
 4. 聖霊の照明の働き
 5. 驚くべき救いのメッセージの提示
-

第32章

第2節 回心

1. 以前と全く異なった何か
 2. 旧新約聖書における回心のイメージ
 3. 区別できるが、分割できないひとつの实在
 4. 回心に必要とされる時間の量
 5. 神の働きの方法における多様性
 6. 単数形の回心と複数形の回心の相違
-

第32章第2節 回心

第1項 悔い改め

1. 回心の否定的側面
2. 悔い改めのヘブル語—nacham
3. 悔い改めのヘブル語—shuv
4. 悔い改めのギリシャ語—metamelomai
5. 悔い改めのギリシャ語—metanoeo
6. 悔い改めにあらかじめ必要なこと
7. 罪に対する敬虔な悲しみ
8. 安価な恵み、安易な信仰の問題

第32章第2節 回心

第2項 信仰

1. キリストの約束とみわざに拠り所を
2. 信仰の概念を動詞形で捉える
3. 語られたことを信じる—pisteuo, pistis
4. 一般的信頼ではなく、人格的信頼
5. 神ご自身の啓示と情報
6. 信仰は理性に適合しないのか
7. 悔い改めと信仰は神からの賜物

第32章

第3節 再生

1. 再生—回心のもうひとつの側面
 2. 再生の教理における人間観の前提
-

第3 2章第3節

第1項 聖書の記述

1. 新生－聖書における多様な記述
 2. palingenesia(rebirth)－再生
 3. 新生についての包括的な解説－ヨハネ三章
-

第3 2章第3節

第2項 再生の意味

1. 新生の理解の困難さに驚くべきではない
 2. 存在の性質を死にふさせる
 3. 本来意図されていたものへの回復
 4. 新生の即時性
 5. 一生涯継続する成長のプロセスの始まり
 6. 御父が計画、御子が成就、御霊が適用
 7. 一方で悲観的評価、他方で大変楽観的
-

第32章

第4節 有効召命、回心、再生の意味合い

1. 人間の性質は、社会改革や教育では変えられない
 2. だれも新生を経験する人を予想・操作できない
 3. クリスマン生活の始まりは罪の自己認識から
 4. 救いの信仰は、神とそのみわざへの正しい信頼を
 5. 回心の経験は、他者とかなり相違する
 6. 新生は、生起しているとき感じられない
-